

色覚検査を受けたあなたへ・そして保護者の方へ【色覚検査だけで決めないで！】

## 色覚検査を受けたあなたへ

あなたのまわりにあるいろいろな色. その色の感じ方は、だれもが同じではありません. 男性の20人に一人、女性の500人に一人は、多くの人と少しちがった色覚(色の感じ方)をもっています. その感じ方をここでは少数色覚といいます. 色覚検査は、あなたが少数色覚かどうかを調べる検査です. 検査表には、多くの人がかんたんに読めるページがあり、その中に、少数色覚の人には読みにくいページもありました.

わたしたちの身の回りは、多数色覚(多くの人がもつ色覚)をもとした色わけがたくさんあります. あなたが少数色覚だと、時にはわかりにくいこともあるでしょう. 多数色覚の人からすると、あなたがわかりにくいと知るとびっくりする人もいるかもしれません. それは、「みんなが自分と同じ色の感じ方をしているはずだ」と思い込んでいるからです. でも、それはまちがいですし、あなたは、色のことでいつも困っているわけではないでしょうから.

困るどころか、少数色覚の人は、多数色覚の人が気づかない色のちがいを見分けることができたり、多数色覚の人が見落とすようなものをかんたんに発見できたりすることもあります. また、この検査表だけでは見つからない色覚のちがいもたくさんあります.

色覚のちがいがよくわかっていなかった昔、「少数色覚の人は信号の色が見分けられないだろうから、鉄道の運転士はさせられない」と決められ、色覚検査が行われるようになりました. また「少数色覚の人は色がわからないだろうから、ほかの仕事もさせられない」と、仕事をさせてもらえなくなったこともあります.

今は、「検査表が読めないだけで鉄道の運転士をさせられない」という決まりはよくないとして、この検査表ではない色覚検査を使い、少数色覚の人のうち約半数は運転士になることができます. 昔のように、少数色覚の人を雇わないという職場も少なくなりましたが、残念ながらまだなくなっていない.

あなたが仕事につくようになるまで、あと何年くらいありますか? もし、あなたが「将来〇〇になりたい」と思っても、なれないよ」とだれかに言われたとしても. あなたが仕事につくころどうなっているかは、だれにもわかりません. 今、この検査表の結果だけで将来の仕事を決めようとすることはおすすめできません.

あなたにも好きなことや興味があること、得意なことがあるでしょう. それらを大切にして、将来の仕事について考えていってほしいです.

## 保護者の方へ

「色覚異常」は現在使用される医学用語ですが、この言葉に違和感を持つ人は少なくありません. 男性の約5%、女性の0.2%にその診断名がつけられますが、ヒトの色覚は個人差が多く、感じ方は人それぞれで、正しいとか間違いとか、優れているとか劣っているとか、「正常」「異常」などと分けられるものではないからです.

日本は、学校で全員に色覚検査を義務化してきた世界でただ一つの国です. それは2002年まで80年以上にわたりました. また2014年には「『色覚異常』者に、自身の『異常』を自覚させ、不相当とされた職業に将来就くことを防ぐために、できるだけ色覚検査を受けることを児童生徒に勧める」ように国は学校等に指導しました. しかし、学校や病院で行う色覚検査は、医学的検査であり職業適性検査ではありません. そのため、この検査での「異常」の有無の診断と、「『色覚異常』だと〇〇にはなれないとされている」という説明しかできません. 検査を受けた人がどのような色の感じ方をしているのか、なぜ「なれないとされている」のかなどの合理的説明はできません.

国は、採用選考時に合理的な説明をしないで色覚検査が行われる場合は「違反選考」と判断しますが、長年色覚検査と職業指導を結びつけてきた日本では、いまだに「色覚異常」を不採用にしたり、採用選考時に説明もなしに色覚検査を行ったりする企業や事業所が残されています. お子さんの進路選択にあたっては、不合理な就職差別に遭わないようご留意の上、学校の先生とよくご相談され、対処されることをおすすめします.

しきかく学習カラーメイトでは、色覚に関わるご質問・ご相談も承っています. お気軽にご連絡ください.

(文責: しきかく学習カラーメイト 代表 尾家宏昭)